

Title	成熟市場下の最適製品ライン戦略
Sub Title	
Author	佐藤一彦(Satou, Kazuhiko) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第845号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0845">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0845</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	佐藤 一彦 (ライオン株式会社)	主査	青井 倫一
		副査	嶋口 充輝 和田 充夫
所属	青井 倫一 研究室		

## 成熟市場下の最適製品ライン戦略

本研究は、製品ラインの形態及び製品ラインの削減を、企業の有力な製品戦略として捉えた上で、製品ラインの形態及び製品ライン削減モデルを構築し、そのモデルの検証結果から成熟市場下における企業の最適製品ラインを提示することを目的とするものである。

本研究では、市場の製品（品目）数を消費者属性、製品特性、競争環境の側面より捉え、企業の製品ラインの形態及び製品ラインの削減を、消費者属性、製品特性、経営資源、競争環境、競争地位に依って影響を受け、経営活動、業績に影響を与えるとした概念モデルを構築した。モデルの検証に当たっては企業調査を実施し、収集データの統計的分析による仮説検証を行った。

分析の結果、市場の製品（品目）数は、消費者ニーズの複雑さ及び競争環境の激しさに依って影響を受け、今日の企業の製品ラインの形態及び製品ラインの削減は業績に依って影響を受けていたことがわかった。

以上の結果から、本研究は、製品ラインの形態及び製品ラインの削減は、企業の長期的な目標との斉合性、そして現在の市場の的確な観察及び自社の現状と経営資源の客観的な認識の下で行われるべきであることを提言している。